

ワクチン(犬)

- *ワクチンは、病気の原因となるウイルスや細菌などを弱毒化したもので、これを接種することにより、その病気に対する免疫力を高め、感染を予防します。
- *ワクチン接種をしても、感染する場合がありますが(抵抗力が弱っていたり、一度に高濃度の病原体に接触するなど)、ワクチン接種をしておけば、実際、ウイルスや細菌が体内に侵入してきても、発病を抑えたり、症状を軽減することができます。



狂犬病予防接種

- *狂犬病は、世界各国で流行が見られるズーノーシス(人獣共通感染症)で、人間でも犬でも発症してしまうと100%死亡してしまう恐ろしい病気です。世界では、毎年5万人以上の方が亡くなっており、そのほとんどが、狂犬病の犬に咬まれて感染しています。
- *現在日本での発生はありませんが、近隣諸国で流行している地域もあるため、いつ日本に入ってきてもおかしくない状況といえます。
- *法律によって、狂犬病ワクチン接種は義務付けられています。生まれ月によって初回接種を行う時期は異なります。初回接種時に市役所に登録を行い、その後毎年、4~6月に追加接種を行います。

伝染病予防ワクチン(混合ワクチン)

実際の生活において、感染する恐れのあるウイルスや、細菌による病気を予防するワクチンです。

現在、1種から9種まで、さまざまな種類の混合ワクチンがあります。このあたりの地域では、流行する感染症の予防は、通常5種混合ワクチンで十分です。

当院では、5種混合ワクチン接種を推奨しています。



5種混合ワクチンで
予防できる感染症

- ♣犬ジステンパー
- ♣犬アデノウイルス感染症
- ♣犬伝染性肝炎
- ♣犬パラインフルエンザ
- ♣犬パルボウイルス感染症

ワクチン接種プログラム

1年目
(子犬)

混合ワクチン
生後2か月頃 ➤ 1回目接種
生後3か月頃 ➤ 2回目接種

狂犬病予防接種

混合ワクチンの接種が終わって
から、3~4週間空けて
狂犬病予防接種をします。

2年目以降
(成犬)

年に1回、追加接種を行います

毎年4~6月に、狂犬病ワクチン
の追加接種を行います。

* ペットショップやブリーダーによつては、初回混合ワクチン接種を生後2か月以前に打つ場合があります。その際は、子犬の時期に3回混合ワクチン接種を行う場合があります。

* 法律では生後 90 日齢を過ぎたら市役所に登録することになっています。